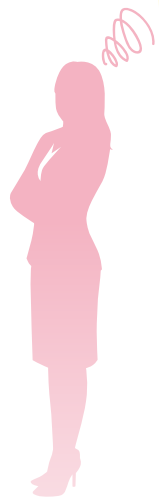


女性が抱える

健康問題とその予防

第12話

チャンスを逃さないで！ HPVワクチン接種



子宮頸がんの大半がHPV（ヒトパピローマウイルス）による感染で起こっていることをご存じでしょうか。

1万人の女性が性行為をすることで、約8000人がHPVに感染することがわかっています。仮にHPVに感染しても、すぐにがんになるわけではありませんが、数年から十数年かけて感染が持続することで、感染した8000人のうち8人ほどががんの診断を受け、手術などの治療が必要になります。

国立がん研究センターの報告によれば、日本では毎年1万1000人ほどの女性が子宮頸がんに罹患し、約2900人の女性が亡くなっています。しかも最近の特徴として、子宮頸がんの女性は20代から増え始め、30代までにがんの治療で子宮を失ってしまう

（妊娠できなくなってしまう）女性も

1年間に1000人ほどいるとのこと。

がんの予防法には検診がありますが、検診は前がん病変（異形成）やがんの早期発見に役立つとはいえ、発見された場合には、円錐切除など子宮への手術が必要になります。新型コロナウイルス感染症の1次予防としてワクチン接種が行われているように、HPVがからだに侵入するのを防止するのがワクチン。日本でも2009年から接種が始まり、2013年4月には小学校6年から高校1年相当の女子に定期接種が開始されました。しかし、因果関係は不明とはいえ、副反応の訴えが多数あったことから、国は同年6月に積極的接種勧奨を差し控えるとの通知を発出していました。その結果、7割を超えていた接種率が1%未満にまで低

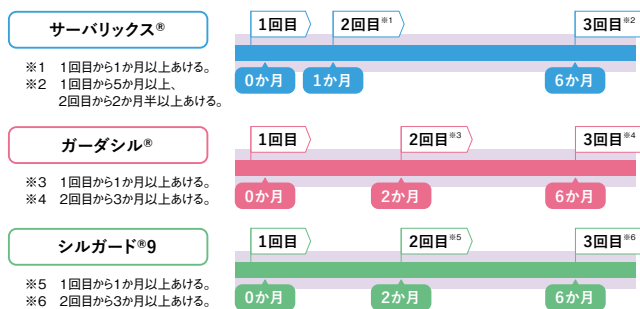
下してしまいました。

その後、HPVワクチンの接種によって、子宮頸がんが予防できるとの報告がスウェーデンなどから相次ぎ、2022年4月より積極的接種勧奨が再開されただけでなく、HPVワクチン接種の機会を逃した方々を対象としたキャッチアップ接種も始まっています。キャッチアップ接種の対象者は、誕生日が1997年4月2日（2007年4月1日までの女性。公費で接種できるワクチンは、2価のワクチン「サーバリックス®」、4価の「ガーダシル®」、9価の「シルガード®9」。決められた間隔をあけて同一のワクチンを合計3回接種します。ただし9価ワクチンの場合には、15歳未満は計2回とすることができません。ご注意ください。キャッチ

アップ接種については、2022年4月〜2025年3月の3年間と決められていることです。あなたのお子さんや周囲のお子さんに、公費負担で接種できる対象者はいませんか？ このチャンスを逃さないで！ 詳細は厚生労働省のホームページ*を参照してください。

図 HPVワクチンの一般的な接種スケジュール

厚生労働省ホームページ「HPVワクチンの接種を逃した方へ」より（一部改変）



※ いずれも、1年以内に接種を終えることが望ましい。
 ※ シルガード®9は、15歳未満は1回目と2回目の接種を5か月以上あけた場合、3回目の接種は必要ない。



【執筆者】

北村 邦夫

きたむら くにお

日本家族計画協会 会長

自治医科大学を1期生として卒業後、群馬県庁に在籍する傍ら、群馬大学医学部産科婦人科学教室で臨床を学ぶ。1988年から日本家族計画協会クリニック所長。東京都予防医学協会理事、日本母性衛生学会名誉会員。2018年より現職。

* ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンの接種を逃した方へ
 ~キャッチアップ接種のご案内~

